

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	精神看護学実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3学年	学期及び曜時限		教室名	各実習施設
担 当 教 員	中辻友華	実務経験と その関連資格	国立京都病院、国立病院機構兵庫中央病院、国立病院機構やまと精神医療センターで計21年勤務 看護師		
《授業科目における学習内容》					
精神を障がいされた対象および家族を理解し、日常生活や社会生活への適応を支援するための基礎的能力を習得する。また対象との人間(対人)関係を振り返り、自己理解(洞察)できる態度を習得する。					
《成績評価の方法と基準》					
実習指導者による行動目標の達成度評価、実習生の出席状況、実習報告会の評価などによる総合評価とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
《授業外における学習方法》					
事前学習、課題学習を行う。					
《履修に当たっての留意点》					
臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・実習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2025年 5月12日～10月17日 合計90時間				
実習の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 精神に障がいをもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する 2) 対象の精神症状が日常生活に及ぼす影響をふまえ、適切なセルフケア行動への援助ができる 3) 対象の社会復帰、社会参加への支援の実際を理解する 4) 対象-学生間の言動を振り返り、自己洞察しコミュニケーション能力を向上する。 				
実習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の身体的特徴が言語化できる 2) 対象の精神的特徴が言語化できる 3) 対象の社会的特徴が言語化できる 4) 対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的にとらえ言語化できる 5) 対象に応じた看護上の問題を抽出し、看護計画を立案できる 6) 対象のセルフケアレベルに応じた日常生活援助が安全に実施できる 7) 実施を振り返り、追加修正を加えた看護実践ができる 8) 精神症状に応じた専門的な関わりが模倣できる 9) 対象の治療に関する援助ができる 10) 援助の実施に際し、対象の人権に配慮できる 11) 対象の社会復帰、社会参加を支援する多職種連携協働における看護師の役割を言語化できる 12) 対象に必要な社会資源と支援の必要性を言語化できる 13) 対象者との相互作用の場面を描写できる 14) 対象との関わりの中で生じる気持ちに気づき、検討し、自己洞察したことを記述できる 15) コミュニケーションにおける自己の課題を記述できる 16) 実習指導者および教員の指導・助言を受け入れ、主体的に学習に取り組むことができる 17) 決められた実習ルールを遵守できる 18) 個人情報および守秘義務の必要性を理解し、遵守できる 19) 必要な報告連絡相談が適切にできる 20) 他者を尊重し、グループメンバー、医療従事者、教員と望ましい関係が構築できる 				